

亀井組

太陽光など環境事業強化

本社改装、モデル施設に

総合建設業の亀井組(鳴門市)は、太陽光発電やLED照明設備の施工、省エネ診断、カーボンオフセット(二酸化炭素排出の相殺)の4分野の環境事業を強化している。太陽光発電の効率化を実験する設備を今夏にも所有地に整備。本社は壁面緑化などの改装を落させており、環境事業のモデル施設にして顧客獲得を進めている。

太陽光発電は、一般住宅から大規模太陽光発電(メガソーラー)までを請け負う。効率のよい発電をするため、所有する鳴門市の遊休地約1500平方メートルで4月から実証実験施設の建設を始め、今夏にも稼働させる。

太陽光発電パネルを360枚設置する予定。設

置角度やパネルを置く台の高さを変更した11パターンの試験する。雑草が生えるのを防ぐため、シートや碎石などで覆う実験も行う。104露の発電容量があり、四国電力へ売電して年間約460万円の収入も見込む。

LED照明設備の施工や省エネ診断は事業所が対象。これまで建築現場で培ってきたノウハウに基づき、省エネ・省コストとなる最良の照明設備プランなどを提案し、施工する。

カーボンオフセットは、排出権取引を仲介する事業を視野に入れている。既に本社を環境事業の

モデルとして改装。太陽光発電やLED照明、雨

水利用システムを導入したほか、壁面、屋上には緑化を施した。

環境事業の推進に合わせ、土木や建築の技術をベースに、地球環境に与える負荷を低減し持続可能な地域社会の創造を目指す「グリーン・コントラクション・カンパニー」を経営理念に掲げ、商標登録した。

亀井知英取締役は「今後もバイオマスや水力など、常に新しい環境配慮型の事業を取り上げていきたい」と話している。

(林啓二)

